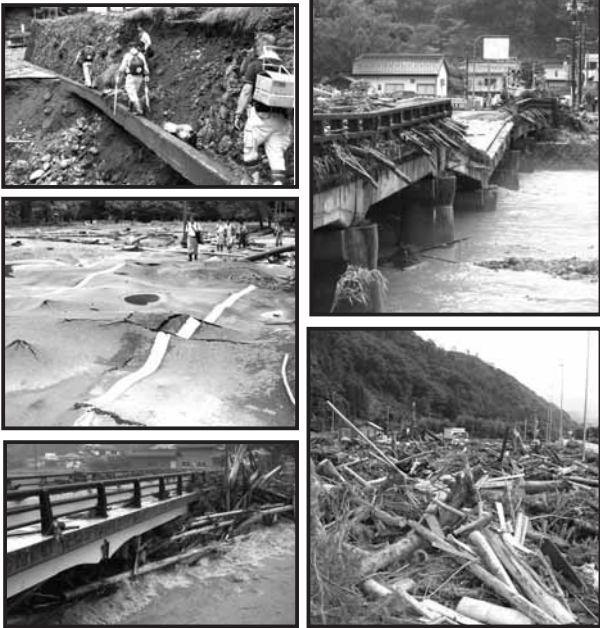


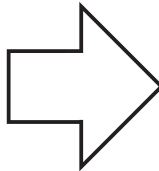
台風9号 被害状況



現在の様子



立野
羽瀨
神子畑
神子畑
羽瀨



1年 台風9号災害から

昨年8月9日に襲来した台風9号。台風がもたらした豪雨は、奥田路地区で257mmの最大24時間雨量を記録。市内全ての観測所で最大24時間雨量が80mm以上でした。

河川の氾濫や土砂崩れが相次いで発生し、道路や堤防の損壊、橋の崩落、家屋の浸水や停電、断水などの大きな被害をもたらし、特に神子畑区や佐中区、奥田路区、中田路区の一部では土砂崩れなどで道路が寸断され、計80世帯175人が孤立。復旧までの数日間、水道、電気、電話などのライフラインが途絶えました。被災した地区では市内外から集まった多くのボランティアや朝来市建設業協会の方などが活動し早期復旧に尽力されました。そして1年が経過。市内では兵庫県や市による復旧工事が進み、災害前の様子を取り戻そうとしています。当時の体験や経験、教訓を風化させてないためにも日ごろから防災について意識し、いざというときのための正しい知識を身につけておきましょう。

普段から災害に備える



山内 隆治郎 さん
(神子畑区区长)

1年前の台風9号災害では神子畑区も大きな被害を受けました。

夜11頃に当時の区長から電話で「区の様子を確認してほしい」と連絡が入り、家の外に出ようとしたところ、裏山から大量の水が家の中に流れ込んでいました。妻、娘と3人で対応しつつ、近所の人と被害の大きかった家の前で、雨が小降りになる4時頃まで、成すすべなくただ呆然としていました。そして夜が明け、鮮明な被害の状況が目の前に広がりました。神子畑区は道路が寸断され、完全に孤立してしまいました。しかし、行政の素早い対応により、食料や必要な物資を届けていただきました。また、本当に多くのボランティアの方に来ていただき、とても助かりました。

当時はとにかくみんな一生懸命でした。ボランティアの方などみなさんに助けていただいたので区民もがんばれたのだと思います。

災害から1年が経過しましたが、災害を体験した区民は高い防災の意識を持っていきます。

高齢者が多い区ですが、いざという時に対応できるように、元気な高齢者が一人暮らしの高齢者と日ごろからコミュニケーションをとるように努めています。

また、とにかく早めに避難すること、大丈夫なうちに1時間でも2時間でも早く避難所へ向かうことを徹底するとともに、指定されている避難所だけではなく、隣保ごとや隣り近所といった小さい単位で避難する場所を普段から考えるようにしています。

日ごろから防災について意識しておくのと意識しないのでは、突然災害が起きたときに違いがでます。昨年の体験をおおいに生かして事前に心構えをしていきたいです。